浜松
南高新聞

発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
印刷
浜松共同印刷株式会社

メガネの
吉田屋
浜松駅前広小路
53－1188代
浜松郵便局前
決さビル 54－0181代

『輪』を掲げて！

悪天候にもめげず
好評のうちに幕とじる

第十一回文化展は、去る九月二十七・二十八の両日に行われた。この行事は他の高校の文化祭と重なったり、あいにくの天候などで来客が少ないと思われたが、多数の来客があり、まずまずの成果であった。人気があったものは、おばけ屋敷・映画・迷路であり、真新しいものでは、デート形式のものがあった。

一年を通して最も盛大な行事である文化展が、九月も終わりの二十七・二十八日の両日に行われた。去年と同じように天候に恵まれぬ二日間で、二十八日は午後から小雨が降りはじめた。

今年は他校の文化祭と重なったり、天候のこともあって、訪問者が少ないのではと心配されたが、予想に反し多数の人が訪れた。

今年は、文化展において、人、人々とのつながりをよりしっかりしたものにしようということから、テーマを「輪」とした。

HR展・部展・個人展・食堂・チャリティーバザーなどが校舎内で行われた。体育館では、管弦楽部・演劇部・合唱同好会・創作ダンス部による発表会と最高の呼び物である演芸会が行われた。

去年、間に合わなかった暗幕がやっとつき、照明も冴え、演芸会では名演奏がくりひろげられ、数多くの聴衆を集めた。また中庭ではつどいの広場が設けられ、運動場では凧上げ大会が開かれた。二十八日のフィナーレが終わると騒がしかった校内は静まりかえった。

文化展の校内風景

今回のテーマ「輪」は、人と人とのつながりをよりしっかりしたものにということで、各HR展・部展は、趣向を凝らしたものも多く見られた。

HR展の審査は例年通り行われたが、いろいろと問題が起きたため、今年のHR展審査は取りやめになった。

部展では、日頃の活動の成果を各部とも如実に、見事に展示していた。人気の差が少なからず見られ、訪問者がすぐ出ていってしまう展示場も見られた。

HR展・部展を通して人気のあるものは、映画・おばけ屋敷・迷路などで、毎年同じような傾向を示している。

体育館では、発表会が行なわれ演劇部は、見事な演技を披露し、好評であった。管弦楽部の演奏には、人気があったようだ。創作ダンスには、男子の人気が集まり、神秘的な音楽と照明とで、幻想の世界に皆をひき入れた。合唱同好会は、さわやかな歌声を体育館中に響き渡らせていた。演芸会は、昨年格技場で行われたが、暗幕がついたため、全て体育館で行われた。しかし、午前中からの受けつぎなどに時間がかかったりして、時間が足りないとの声も聞かれたが、どの出演者もプロ顔負けの名演奏を繰り広げ、大喝采を浴びた。二十八日には、武道として弓道・剣道・柔道・居合道などの型が披露された。

中庭に設けられたつどいの広場では、フォークコンサート、フォークダンス、ゲームなどが行われ皆楽しい時を過ごした。

運動場で行われた凧上げ大会は曇り空など何のそのと大空に舞い上がり、各HRによって趣向を凝らされた大小さまざまな凧が所狭しと競い合った。

賞は次の通りである。

熱演賞
よくも上がったで賞　35HR
芸術賞　36HR
ダイナミック賞　〃

文化展の締め括りであるフィナーレは、昨年同様多数の参加者があり、フォークダンスやゲームなどに閉じゆく文化展の最後を楽しんでいた。フォークダンスの後はギター・アコーディオンを伴奏に全員すわり込んで歌を歌い、最後にジェンカをやって二日間の幕を閉じた。

今回の文化展は、我々にいろいろな問題を投げかけてくれたのではないだろうか。HR展においての問題などお祭り気分になりがちな文化展、南校では「祭」ではなく「展」である理由を考えてみようではないか。おばけ屋敷がもてはやされ、何かを訴えようとしているものが見おとされるのも、お祭り気分に拍車をかけているのではないだろうか。

いろいろな問題をかかえて終った文化展であったが、次回は、よりよい文化展にしてもらいたいものである。

論説

「友人は人生の宝物」

今回は「友情」について考えてみた。

あなたは友情を信じるか？と聞かれた時、何と答えるだろうか。まず友情について語る前に、友人ということを考えてみよう。よく大人達は「若いうちに、良い友人を作っておけ」と言う。確かに若いうちにそのように友人を作ることは素晴しいが、ある程度年齢を経、人間性を理解できるようになった時、真実の友人を作るべきであると思う。

高校生時代には、良い友人を作る機会がいたる所に多くある。クラスの中、クラブ・部活動等そして高校生時代に、すでに一生の友人を見つける人もいる。そういう者は、青春の悩みや将来のことについて、その友人と話し合える。だが多くの者は、真の友人を見つけることができずにいるのではないだろうか。

確かに外見は友人らしく振る舞い、何でも相談し合っているようだが、それはあくまでも外見であり、内側は誰にも知られていないのである。学校という集団の中で一人きりでいるのはいやだ。という小さな恐怖感や、ある程度の虚栄のために、友人らしき者を作る。そして人には「これが私の友人だ」という顔をする。だから真剣な悩みがあっても誰にも相談できず、自分の内にしまってしまう。高校生時代は人間の最も悩み多き時であり、身につけることが多い時である。このような時に真の友人を作ることのできる人間は素晴らしい。真の友人を作ることのできなかった人も、真の友人を作ることの難しさは知ることができる。そのことだけでも素晴らしいことだ。

社会に出てからもそうである社会という巨大な集団に入ればまたそこで大きな悩みを持つかもしれない。そういう時、やはり友人は一番必要なものなのである。また、人間は悲しい時や悩んでいる時だけ友人を必要とはしない。その者が何か大きな喜びを得た時にその喜びをわかち合う人間を必要とするのである。真の友人ならば相手の気持ちもわかりすぎるぐらいにわかる。相手の気持ちがわかるから本当は人ごとなのに喜びを分け合うことができる。友人はいつどんな時でも、どんな事でも理解し合えるのだ。たとえいつも一緒にいなくても―。

次に同性ではなく、異性の友情という方向から考えてみようある人は「男女の間に友情は成り立たない」と言う。だが、高校生ぐらいになると人間というものが次第に理解できるようになってくる。人間を見分ける目が肥えてくれば異性の中からも互いをわかり合えるような人間を探し出すこともできるのではないだろうか？年齢とは無関心にである。たとえ年上であろうと年下であろうと、その人間が自分の友人として妥当であればかまわないのである。しかし、男女間の友情を近頃でははき違えている者が多くいる。友人というものは、利用する為にあるのではなく、互いを向上させるべくあるのである。そのところを正しく理解していれば、男女間にも立派な友情は成り立つのである。

友人を多くもつ者は、友情という言葉を大切にする。いや友人をもっていると自然にそうなるのだ。友情の大切さを知ることは、大げさに言えば人生ということをも知っていくことになるのだ。

私達も、今のような時代に友情というものを真剣に考え、理解から喜びも苦しみもわかち合えるような友人を作ろうではないか。そして悔いのない人生を送っていこうではないか。

頑張る一年生
内容も一層豊富に

昭和五十年第十二回弁論大会が十一月十八日に体育館にて開かれた。

今年も例年どおり、学年別弁論で各学年の代表者四名を選出し、校内大会に臨んだ。

まず審査基準は▽論旨六十点・テーマは論題に合っているか・自己の主張は明確であるか・説得力があるか▽音声二十点・発音発声がしっかりしているか・抑揚が巧みであるか・間のとり方は適当であるか・話す速度はどうか▽態度二十点・原稿用紙にたよらないで話せるか・演壇に立つまでの動作はどうかなどである。

審査委員は生徒六人、先生六人で構成され、各々の弁士の審査に当たった。

審査の結果は次のとおりである

第一位「身体障害者に学ぶ」
大田正之（十一HR）
第二位「自殺」
神谷秀博（二十一HR）
第三位「私とおばあちゃん」
磯部裕美（二十七HR）

なお弁士の中にはクラスで無理やり選ばれて出場した者もみられたようだ。しかし今回の弁論大会は、弁士が各々真剣に論題に取り組んでおり、全般的に内容が豊富でよかったといえる。声が小さすぎて聴衆にはよく聞き取れなかった者がいたのは残念であった。

さて聴衆である生徒の態度はあまりよくなかったようだ。真剣に耳を傾けている者も多かったが、一部の生徒の中には弁論に退屈して時間をもて遊んでいる者も多かった。しかし弁論大会を終えた後、審査した先生は「聴衆者の態度が良くなった」と述べていた。我々聴衆者は聞く態度について改めて考え直す必要があるのではないだろうか？

近年の弁論大会はただの行事のようになって、意義もなくなってきているようである。弁論大会は自分の意見を発表するには絶好の場所である。なぜそれを利用しないのか。この頃の若者は自分の意見を持っていないようである。弁論大会はただ授業時間を減らすためにあるのではなく、自分の思っていること・訴えたいことを進んで発表しようではないか。そして、また我々が考えなければならないことが多くある現在、このような全校の生徒が集まることができる機会に、代表を決めるようなことはせず、いろいろな意見を出し合ってより多くを知ってゆくことが必要ではないだろうか。

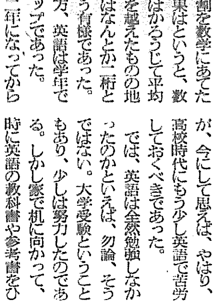
先生の高校生時代

喫茶店で勉強？

小沢　香

今回は、英語科担当で、とても勉強家だった小沢香先生にお願いして書いていただきました。

英語はどうやって勉強したかということをよく生徒諸君から質問されるが、そのたびに私は返答に困ってしまう。というのは、英語に関する限り私は殆どこれといった苦労を経験しなかったのである。しかし、逆に理科と数学には随分苦しめられたものである。


小沢先生の高校時代

高一の時は、まず地学で苦しめられた。一学期には先生のお情けでなんとか赤点を取らずに済んだが、二学期は自分で単位を取ろうと思い、参考書を二冊問題集を一冊買ってきて夏休み中に既習範囲を徹底的に復習した。更に、二学期中間試験では試験勉強の全体の五割を地学に三割を数学にあてた。結果はというと、数学はかろうじて平均点を越えたものの地学はなんとか一桁という有様であった。一方、英語は学年でトップであった。

二年になってからは化学で苦しめられた。亀という名の先生だったが、とにかくこの先生のおかげで単位を取れたようなものである。物理や数学も同じようなものである。とにかくいくら勉強してもさっぱりわからないのである。しかし英語だけはその後も殆ど何の苦労もないまま卒業してしまったが、今にして思えば、やはり、高校時代にもう少し英語で苦労しておくべきであった。

では、英語は全然勉強しなかったのかといえば、勿論、そうではない。大学受験ということもあり、少しは努力したのである。しかし家で机に向かって時に英語の教科書や参考書をひろげることは、概して少なかった。

では、どこで勉強したかと言えば、まず第一に汽車の中であり、次に喫茶店であり、そして友人の下宿であった。

今でも二俣線に乗ると、掛西の生徒達が教科書や参考書をひろげて読みふけっているが、私もそれにつられて英語の教科書などを読んだものである。

掛川市内の喫茶店の数は少ないが、私は殆ど全部の喫茶店を知っている。快い音楽を聞きながら、友人と英単語の暗記をしたものである。また友人の下宿では、特に自分から勉強しようというのでなく、友人の質問に答えることが多かった。

最後にひとつつけ加えておきたいのは、英語の授業中、私は授業内容の理解に全力を尽くしたということである。

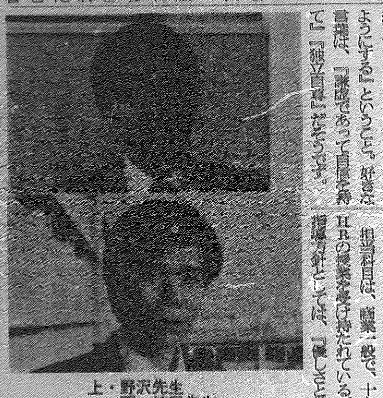
秋・新たに就任
新任教師の横顔

庄田先生

九月一日、本校体育館において庄田先生の離任式が行われた。庄田先生は、昭和三十九年に本校の社会科の教諭として着任され、以来、十一年と四ケ月間、活躍されてきた。また、新聞部の顧問として我々部員をいろいろ指導してくださったことも忘れがたい。

そして、今度、県教育委員会事務局の企画調査課に転任されることになった。そこで、足りなくなった社会科の教諭に、新しく野沢英実先生が赴任してこられた。

また、商業科担当の鴻野剛先生が、十二指腸潰瘍孔で入院されたため鴻野先生が受け持っておられた週十八時間を残りの商業科担当の先生方で、分けて受け持たれることになったが、四時間残るため、これを受け持つ新しい講師として、植田久二先生が臨時で着任された。


上・野沢先生
下・植田先生

そこで今回は、お二人のプロフィールを紹介することにしよう。

▼野沢英実先生は、昭和二十四年五月十七日生まれの二十六才で慶応大学を卒業後、教員生活をスタートされた。

専門の科目は、日本史と倫理社会で、この学校では、一年生の三クラスの倫理社会と二年生の四クラスの日本史を担当している。指導方針としては、『学問と人生の結びつきを捉え、実社会に生かすようにする』ということ。好きな言葉は、『謙虚であって自信を持て』『独立自尊』だそうです。

我校の第一印象は、勉強に対する誠実性は買うが、全体的におとなしく、全ての面で団結力と積極性に欠けるということ。

趣味は、犬と裏山へ散歩しにゆくこと、旅行、野球、読書となかなか広いようです。

▼植田久二先生は、昭和二十七年八月二十日生まれの二十三才現在、独身で、御両親といっしょに住んでいらっしゃるそうです中京大学商学部を卒業後、教員生活をスタートされた。

担当科目は、商業一般で、十七HRの授業を受け持たれている。

指導方針としては、『優しさと厳しさの両面を持つ指導』ということ。好きな言葉は、『七転八起』だそうです。我校の第一印象としては、静かな学園ということ。

趣味は、スポーツ、特に野球ということです。（なお、植田先生は、鴻野先生が入院されている間おられるだけですが、一応、紹介させていただきました。）

他校訪問

市立高を訪ねて

今回は、十一月二十日に浜松市立高校を訪問させていただきました。

曳馬の野辺に輝く朝日
赤石そめて静けき夕日
誠は天の道なりと
永劫の真理しめすかな
まじめを尊ぶ乙女我に

と歌われる校歌の下で「誠・愛・節」を校訓に長い伝統を受け継いでいる市立校。当校は明治三十四年、静岡県浜松高等女学校として創立され、昭和四十七年衛生看護科を設置して現在に至っている。

生徒在籍数は、千五百十三名でその中には衛生看護科生百十九名が含まれている。

当校付近には、北高、浜商、浜工などがあり、ちょっとした学生街を形成して、我校とは異なった環境下にあるといえる。

また学校施設として湯沸室、L・L教室、プラネタリューム等が設置され、特にプラネタリュームは県下広しといえども、これを設けている高校は市立校だけであるそうだ。そのうえ体育施設も拡充しており、運動部員たちものびのびとスポーツに励んでいる。

また当校の特色の一つである衛生看護科は近代的な医療機械を取り入れ、最新の設備の下で実習が行われているが、まだまだ歴史も浅いので、今後も新しい施設を導入したいそうだ。

部活の面では、バレー部が強力なチームとして県内のみならず、全国的にも知られており、テニス・陸上部などの活躍もめざましい。

このように数々の特色をもち、施設にも恵まれた市立校は、その伝統と特長とを十分生かした素晴らしい学校であるといえよう。

これを契機に今後の当校の発展を願い、本校との交流が深まることを期待したい。

取材日記

快い返答希望

某月某日、体育大会の感想を聞くため校内を歩き回る。中には真剣にインタビューに答えてくれる生徒がいるが、ほとんどが笑って逃げてしまったり、軽率に答えるだけである。インタビューに答えることは悪いことでも恥ずかしいことでもないのだから、皆さん快く答えましょう。

某月某日、生徒会室へ原稿の依頼に行く。最近の生徒会室は以前にも増してにぎやかになった。いろいろな人が出入りして、常に活気に満ちている感じである。会長の顔すら知らないなどと言っている生徒は、気軽な気持ちで生徒会室を訪れてみるのも良いことかも―。

某月某日、某先生に赤ちゃんが誕生したと聞き、インタビューに行く。あまりくわしくは答えてはくださらなかったが、顔の表情は常に柔和でうれしさを隠しきれない様子であった。普段学校では、気真面目な顔で授業をする先生も、家に帰れば実に家庭的な人間になってしまうということを改めて感じた。先生は、これからも授業は常に厳しく、家庭ではとても優しい人間で。

遠州灘

▽寒さが日増しに厳しくなり、名物「遠州からっ風」が吹きつける季節となった。この地方に雪は少ないが、この風のために悩まされる。特に、朝の登校時その中でも、マフラーもせずに黙々と走る自転車通学の者にとって朝はまさに風との戦いであろう。これはバス通学の者には理解できない苦しみである。▽寒ければ寒いほど人の心の暖かさを感じるとか。世の中がだんだん冷たくなっていくその中で、人の心の暖かさだけはいつまでも残しておきたいものである。▽十二月六日、東京室内管弦楽団を招いての芸術鑑賞教室。この芸術鑑賞教室に対しての感想はさまざまであるが、生徒全員で歌った「若者たち」「学生時代」が好評を得たようであった。それには、校歌以外の唄を生徒全員で歌うということは非常に珍しいにもかかわらず、校歌の時にはボソボソと小声で歌っている者も楽しそうに大声で（？）歌っていたという事実があったからではないだろうか。このように生徒全員で合唱したことによって、特に今までは何気なく聞いていた「学生時代」の詞の内容にはっとし、そして、学生時代の素晴しさを教えられたような人も少なくなかったようである。▽市営バスもついに料金値上げを実施し、本校スクールバスの料金もその例にもれず値上げが実施された。そのせいかバスに乗る生徒の表情にも何となく複雑なものが見られ、特に料金を払う時の手には何かいいたげな微妙な動きが感じられるようだ。▽本校では、男子生徒の長髪が何気なく受け入れられているが、ある国では長髪の男性は入国禁止とか。この事実をどう受けとめるか▽世間のざわめきから逃げ出したくなった時、陽だまりにチョコンと座って日なたぼっこをしてみませんか？きっと幼いころを思い出し、心が和らぐことだろう。▽とうとう昭和五十年も終わりに近づいている。この一年を振り返って達成できなかった夢の多さに思わずため息をついてしまうような者もあるだろう。しかし、常に未来に目を向けて生きていく、それが若者の姿なのではないだろうか。振り返ることも大切だ、しかし、それ以上に明日を見つめることが大切ではないだろうか。目の前にある冬休み、有意義に送りたいものだ。よいお年を……

御通学には指定制服で
女子冬指定服
〃 夏スカート
〃 冬トッパー
男子制服詰エリ
生地純毛日毛カシドス地
〃 ギャバ地
御調製
大森洋服店
浜松市佐藤町　TEL㊶3288

生徒募集　お帰りが便利・モダンな教室
いけばな・フラワーデザイン教室
池坊・草月流・小原流
松風流・宝心流・吉流
（入会随時・案内申込書有）
花徳
教室・東田町店2階
遠鉄浜松駅南
電話52―9086

カッコいい＝きみのファッション
インディアン ストリート
ローティーンからハイティーンまでの本格的なアメリカンカジュアル　4F
5番街　2F
ヨーロッパ、特にイタリア的、洒落っ気と味のある〈MrVAN〉大人のトラディショナル〈KENT〉おなじみのVAN・JUN・Campux・ボブソン等いっぱい
浜松
松菱
TEL大代表55－1111／水曜定休

額縁・絵画材料・デザイン材料
株式会社 彩画堂
本店・浜松連尺 TEL54－1975
54－3854
遠鉄名店ビル TEL53－6348
松菱百貨店 TEL55－3281
広沢配送センター TEL53－8200
新静岡センター TEL55－3856
岡崎名鉄サンリバー TEL23－1151

誠実をモットーに
70年の歴史
至誠堂眼鏡店
浜松市伝馬町（西武デパート西側）
TEL 52－6219

新メンバーで

充実した活動を！

後期の役員抱負を語る

十月一日、日高会長の手から、伊倉新会長の手に南高の生徒会はバトンタッチされた。前期に比べ目立つ活動はないが、それなりに一つ一つの活動を充実したものにしようという抱負をもち、毎日少しずつ活動に励んでいる。しかしそれらの活動に対しての不満などが解決されるという見通しは見当がつかないのである。

生徒会がバトンタッチされて二ケ月たった現在、ようやく活動の一つ一つが軌道にのり始めた。改めて生徒会というものの核心に触れてみると、その目的というものは、学校生活の向上をはかることにある。そのようなことにプラスして活動が少ないせいか、会長は後期の抱負として次のように語っている。

後期生徒会本部役員

▽伊倉正武会長

十月から二ケ月たった今、当時にさかのぼって思い出せば、何でもかんでもやれるものならやってやろうと思っていました。

そして二ケ月たった今、就任当時より落ち着いて冷静に考えると何でもかんでもやるよりどうしたら活動をより少なくし得るかということを考えています。こんなことを言うと語弊があるかもしれません。しかし、我々が言いたいのは、少ない活動の中でそれらを充実させるということです。その為には全生徒の協力が必要になるので、この誌を利用して一言お願いします。生徒会室に思いついた事、気に入らない事、何でも言いたい事は言いに来て下さい。我々はできる限りの努力をして生徒諸君に尽くすことを約束したいと思います。

会長のこのような言論に対して助人となる二人の副会長は、次のようなことを語っている。

▽小瀬浪代副会長

後期の生徒会活動は、前期に比べて行事などが少ないせいでしょうか、活発であるとはいえませんかといって行事ばかり多くすることは、一部の弊害を生みます。私達は生徒の皆さんに、生徒会というものをより密接なものとして考えてもらい、要求がある場合にはそのようなことが実るような活動をしたいと思っています。

▽笹原智美子副会長

副会長という役目を任せられてから二ケ月。どうにか仕事にも慣れはじめ、活動に励んでいる毎日です。私は生徒会という一つのきっかけから、その活動を通じて多くの親友を得るために人間関係を大切にしていきたいと思っています。そして、会長を助け、悔いが残らないように精一杯一つ一つの活動をやってみたいと思います。

このように生徒会の柱ともいえるべき三人の決意は、どれを通じても生徒のための生徒会を目ざしている。

次に各委員長にも一言ずつ語ってもらった。

▽文化委員長

前期には文化展という文化委員会にとっては一番大きな行事があった。その時に全力を注いだ前期役員の意志を受けついで、後期の各活動の中にそれらを取り入れ、より活発な充実したものにしたい。

▽生活委員長

去年から一年の間に亘って検討されていたセーター・ベストの問題も、十一月のはじめに解決された。生活委員会としては、校内の規則の諸問題について、正しい処置を取るよう努めている。

▽体育委員長

後期の生徒会活動には大きな行事はないが、体育委員会としては日増しに厳しくなる寒さの中で、各人健康作りに励むことを希望している。

▽保健委員長

一年を通じて目立つ活動はないが、毎日積み重ねていかなければ衛生上不潔になる場合がある。そのようなところに注意をおき、隠れた部分をさがし出し、常に校内の衛生について気をつかっていきたいと思う。と同時に、一つ一つの活動を充実したものにしたいと思っている。

以上が生徒会役員の一つ一つの目標、及び抱負であるが、どれをとってみてもこれといった大きな活動がない。そのせいで、各役員とも何もやらずに任期終了ということになる恐れがある。もしそのような事態が発生したならば、生徒会というものが、くずれていくことにまちがいないのである。

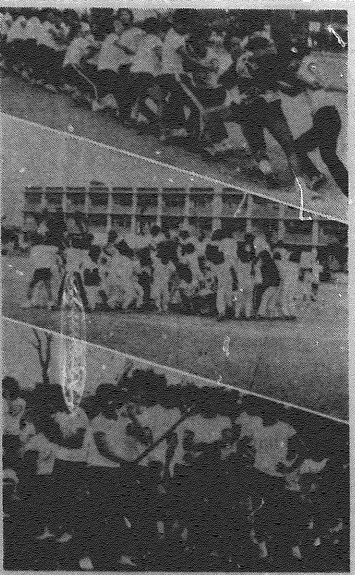
我々生徒側としては、今後の生徒会に今以上の関心を持つとともに、生徒会長及び副会長、各委員会に協力していくことが必要ではないだろうか。また、生徒会を向上させていくために、我々のもっている不満や要求に対して、会長等が、今後どのような活動をするか楽しみに見ていくとともに、見守っていきたいものである。

最後になってしまったが、後期生徒会の目標は「発展」である。その中で具体的なものとして、部活動への参加者を増加させることをあげている。我校に、「帰宅部」などという、異例なものがあることに対して、設けられた一つの処置であると、考えていいだろう。

「発展」その意味は、勢いよく活躍することである。

熱気を増す決勝戦

活躍目立つ三年生


引け・つぶせ・叫べ

十月七日、本校グラウンドにおいて、第十一回体育大会が開催された。各クラスの代表者が持ったプラカードを先頭に、各HR一列、四HRを一集団として行進し、開会式が行われた。

生徒会副会長による開会宣言に続き、学校長、生徒会長のあいさつのあと、藤田・武石による力強い選手宣誓、体育委員長からの競技上の注意にひき続いて、全校生徒によるラジオ体操が行われた。今回は、悪天候のため二回も延期になり、三度目の正直でようやく開催することができた。

午前中、フィールド内では徒競争、リレーなどの予選種目や、走り高跳びなどが進められ、フィールド外では、走り幅跳びが行われた。また各学年とも工夫がこらされているリクレーションゲームがあり、みんな楽しそうに競技に参加していた。そのためか、これに参加できなかった人たちはうらやましがり、ひやかしの声をかけたりしていた。二年男子による組立体操は、笛の合図で次々と繰り広げられ、壮観な眺めにみんな感嘆し大拍手が送られた。次の二年女子によるリズム体操は優雅のなかにもキビキビとした動きがみられこれもまた拍手がやまなかった。

昼休みには、恒例になっている三年女子による仮装行列が行われた。各クラスとも工夫をこらした思い思いの男装・女装で、トラックを一周し、全校生徒の注目の的となった。また、三年男子の有志によるバニーガールも続くバニーボーイが飛び入りで参加して、場内の喝采を浴びた。

午後は、仮装行列の余韻を残しながら、一年生全員による高校生体操が行われ、合同体操の美しさを感じさせた。引き続いて砲丸投げ、ボール投げ、決勝種目へと繰り広げられた。決勝種目が始まると、各クラスとも一段と応援にも熱がはいってきた。会場はだんだんと熱気を増してきた。特に、HR対抗スウェーデンリレー・HR対抗リレーともなると、みんな立ち上がり、トラックに近づいて盛んな応援が送られ、興奮のるつぼとなった。それに、徒競争とリレーの決勝の間には、リクレーションゲームもはいり、爆笑のうずともなった。

全種目が無事終わり、小雨のパラつく中で閉会式が行われた。体育委員長から成績が発表され、自分のクラスが呼ばれると、みんな跳び上がって喜んでいた。そのあと教頭先生のあいさつ、全校生徒による校歌合唱が行われ、幕を閉じたのである。次に生徒の声を聞いてみたところ、

▽H・Rリレーの決勝のとき8組では多すぎてバトンタッチがうまくいかない。

▽去年のほうがおもしろかった。

▽リクレーション種目をもっと増やしてほしい。

などの意見が多かった。

男女総合順位と、応援審査の結果は次の通りである。

▼男子
一位　三十三HR
二位　三十一HR
三位　三十四HR

▼女子
一位　二十六HR
二位　二十七HR
三位　三十七HR

▼応援
総合優勝　三十五HR
協力賞　二十八HR
熱演賞　三十七HR
アイデア賞　三十六HR

モノグサ多し

南校意識調査から

今年も十二月に入ってすでに八ケ月が過ぎました。一年生も入学当時の堅さはもう見る影もなく、高校生活に解け込んでいます。この辺で自分自身を振り返ってみませんか。中学校当時の自分と比較してみてください。あの頃はまだまだ子供だと言われ、子供として扱われていました。ところが高校生になると、がらりと変って「もうすっかり大人になって」とか、「りっぱになったねえ」と言われた覚えのある人もいるかと思います。まわりが大人として見てくれますし、ある程度の自由が認められます。先生も中学校と違って冷たく（？）感じられ、近付きにくくなります。今まで、〝勉め強いる〟だった勉強も、とやかく言われなくなり、したがって自分の意志に基づいてしなければならなくなります。しかしこうなるとつい勉強を忘れ、気楽にのんびりと高校生活を過ごしてしまいます。入学当時にはそう大差のなかった学力に、じょじょに差が付き始めますそれに気づいても、一度伸びきったゴムが元にもどらないように、やる気も出ず、四無主義へ走り、行き着いた所は、おれは天下の劣等生（冗談なんかではないのですありえないという保証はないのですから）。それに、自分を失うということもあります。「なぜ流行を追うのか。それはみんなと同じ格好をしていれば目立たないし、みんなと同じなのだと、安心できるから…」と、こんな話を耳にしたことがあります。引き立てるためのおしゃれが、最近は全く逆に使われつつあるのです。全体を支配していくものが悪い方へ向うと、なかなか修正できるものではありません。我校の校風である「帰宅部的」もそうです。みんなで同意し合っていくのが習慣的なのですが、我校では人に抜かれる心配がないと、のん気にしています。勉強に対して積極的でありませんみんなやらないからそんなに努力しなくても良いという安易な考えが原因なのです。あなたはどうですか。自分は違うと否定できますか。自分を客観的に見つめてみてください。以下に、「南生（特に一年生）の全般的性格」を載せておきますので、参考に読んでみてください。

普通科―腰がすわったという感じのない生徒で落着きがなく、大ぜいで騒ぐというよりは、なんとなくモソモソしているといった感じになってくる。興味・関心の分化も大して進まず、全体としてモノグサな印象が濃くなる。一つに視点を定めて努力を集中するなどはもちろんあり得ないが、自分で吟味し、自分で選択して事を進めることもしない。何かにつけ人をアテにすることが多いのである。人前に出ることは避け、疑問を追求することもせず、かといって運を天に任せて大きなことを考えるでもなし、けっこう試験のヤマがわからないのを悩んだりする。

商業科―明るく、アッサリした活動家の生徒であり、幾分なまけ者である。おしゃべり好きで、誰彼となく一緒になってはおしゃべりをしているといった風である。いつでもウキウキした感じを与えるほど調子は良く、開けっぴろげである。スタイルを気にする方でちょっとしゃれたものを着て町を歩きたがるようなところもあるし運動着のちょっとした汚れでも気にするようなところもある。教科の中では、どちらかといえば、文科系の方が得意であるが、あまり勉強のことは考えないようにしている。何か困ったことになっても誰かが助けてくれるだろうといった、人をアテにする気持ちが強くまたそれでうまく済んでしまうものだといった甘い見通しももっている。仲間とおしゃべりをしながら毎日を愉快に過ごしている。楽天的なお嬢さんタイプということができる。知的には中程度の者が主であろう。

寒風に鍛える

男女ハンドの活躍

今回は、スポーツの秋にちなんで、運動部を中心として取材をしてみた。

まず最初に、各部での三年生の最後の活躍をあげてみよう。

やはり、男女ハンドボール部の活躍は、すばらしいものである。出場する大会はすべて優勝という栄光ある成績を修めている。詳しい結果は次の通りである。

▼男女ハンドボール部

馬場杯
気賀高2―13本校
春野高4―24本校
優勝

スポーツ祭
気賀高6―24本校
春野高8―24本校
優勝

また、その他の練習試合も全勝というすばらしい結果を修めた。

▼女子ハンドボール部

馬場杯
気賀高7―0本校
二俣高3―5本校
優勝

スポーツ祭
気賀高1―4本校
優勝

（二俣校は、雨のためこれなかった）

女子ハンドボール部も、男子ハンドボール部と同様にすばらしい結果を修めた。

このような結果を修めることができたのも、きびしい練習と、それに耐えてきた部員たちの努力があったからだろう。これからも、今まで以上に頑張ってもらいたいものである。

テニス部の練習風景

▼女子バレー部

去る十一月一日と三日に行われた新人戦の結果は次の通りである。

第一日目は積志高で行われた。
一回戦　誠心高0―2本校
二回戦　浜名高1―2本校
第二日目は湖東高で行われた。
三回戦　森高校2―1本校
敗者復活戦
西遠高0―2本校
磐田東2―1本校

この結果、十一月二十三・二十四日に沼津で行われる県大会に出場することになった。それに備え今、練習に練習を重ねて頑張っている。その練習の成果を十分発揮できるような試合をしてもらいたいものである。

▼男子テニス部

スポーツ祭

杉山・山下組は一回戦・二回戦と順調に勝ち進んだが、三回戦で惜しくも敗れてしまった。

三回戦　湖東高6―2本校

一方、渋多野・白鳥組は一回戦

一回戦　湖東高6―1本校

で惜しくも敗れてしまった。

行数などの関係で載せられなかったその他の運動部も、放課後になると、一生懸命練習をしている。日、一日と寒さもいちだんときびしくなっているこのごろの練習はとてもつらいものだと思われる。しかし、それに打ち勝つだけの体力と根性を、養ってもらいたい。

また、今回は載せられなかったが、地味な活動を続けている文化部もまた、運動部に負けないぐらい頑張ってやってもらいたい。

ところで、各部活へ取材にいくと、きまったようにどこの部でも部員を募集しているというのである。（我が新聞部も例外ではない）これは帰宅部の示すところが多いからではないだろうか。

演劇教室開かる

回も重ね、今年で12回を迎えるまでとなった「浜松高校演劇教室」が去る九月二十五日から十月五日までの十一日間、浜松市民会館で行われた。今回は東京演劇アンサンブルの公演により、シェイクスピア作の「真夏の夜の夢」を（本校は十月一日の午後一時三十分より）観劇した。これは本年度「真夏の夜の夢」「我等青少年学徒」の二作品が候補として上がっていたのだが、生徒の間での要望により決定したものである。

東京演劇アンサンブルは昭和二十八年に結成され、第一回公演であるアーサーミラー作「みんな我が子」を起点として今までに約二千七百回もの公演をなし、数多くの賞を受賞してきている劇団である。

過去から現在に至るにあたって次第に学校行事の一つとして定着しつつあるこの演劇教室は昭和二十九年にはじまり、今まで生徒になんらかの心を引かせるものを残しつつ、行われてきた。昨年は「越後ご女日記」と称して女として、生きる人たちの姿に深い感動を与えたが、今回のこの作品はミュージカルにところどころユーモアをとり入れた部分があり、その都度生徒から大きな笑いがもれたりしていた。

観劇前には前もって簡単に作品のあらすじなどが書かれたパンフレットが一部ずつ配られ、多くの人がざっと一通り目を通していたようだった。また、観劇後は市民会館集会室にて生徒座談会が開かれた。

今回の演劇をふり返って少数の人に感想をうかがったところ、全体の筋があまりはっとしない。劇の内容はすばらしかったが結論というべきものがあまりよくわからなかった、という返答が意外に多かった。

演劇教室というものは単に観賞するだけではない。多くの演劇を見ることによって広い社会の現実、未来の自分に、考える場を作り出すことが必要ではないだろうか。そして、一層演劇観を高めることにより、来年、再来年、と今後に行われる演劇教室が、さらにすばらしく、意義深いものとなることを期待したいものである。

赤ちゃん誕生

四人の先生に赤ちゃん誕生。

一人は、鈴木美恵子先生の歩ちゃん。一九七五年八月二十一日お腹から脱出。体重二・九kg身長四十七cmのほぼ標準の女の子。二人目の子なのであまり手がかけられないから、自分の力で歩いていけるように名前をつけたとか――。

もう一人松原伸悟先生の大悟君同年十月三十日うぶ声を上げる。体重三・二kg身長四十七cmの丸々とした男の子。名前と反比例では大悟君がかわいそうだとは影の声

そして十一月十三日には、小林淑子先生に女の子誕生。同日に、中村宏先生の赤ちゃんの名前が決定した。中村宏子ちゃん。

四人のかわいい赤ちゃんに、幸福が訪れますように――。

□□□編集後記□□□

寒さもいちだんと深まり、厳しい日の続くこのごろ、皆さんは高校生活をいかにお過ごしのことでしょう。

マラソン大会も無事に幕を閉じることができ、今学期に残す行事としては球技大会だけとなりました。大会は迫力が展開されることを期待し、自己の持ち備えている力をフルに出しきって各クラスともよい結果のでることを期待したいものですね。

さて、今回はこのようにしてなんとか浜南校新聞第44号を発行することができたわけですが、発行日が予定日よりも遅れてしまったことは我々の活動がしっかりしていなかったこととして深く反省しています。

現在、新聞部員は十数名ですが新聞部としてみれば発行するだけにも困難といえる状態なのです。そのため、われわれ新聞部では明日に担う一年生の積極的な協力を求めています。新聞等に関心、あるいは自分たちの手で新聞を作ってみたいと思っている方、いつでも気軽に編集室へいらしてください。またこの新聞をよんで不可解な点、疑問などありましたら、最寄りの新聞部員のところまで聞きに来て下さい。

今年もまるたやの
本格派デコレーションケーキで
楽しいクリスマス
ヨーロッパケーキの
まるたや
浜松市鍛冶町96 TEL52―1496 53―4708

'75 IKEYA
BYe BYe
セール
12/6～12/21まで
たのしいプレゼントがいっぱいでーす！
レコード・楽器 イケヤ
本店 浜松田町(有楽街) TEL52―5151
鍛冶町店/遠鉄名店ビル店/磐田店/袋井店/藤枝店

TUZIUME
スポーツバック＆旅行用鞄
浜松駅前広小路通り
辻梅
TEL 52―6015

文庫につよい
リブレモール
730㎡の綜合書店 連尺店
浜松一WIDEなワンフロアー 名店4F店
便利な 松菱7F店
谷島屋書店
YAJIMAYA

曳馬萩筆・書道用具
文明堂筆舗
浜松市連尺町61
TEL 52―6476

VAN VAN コート フェスティバル!!
★ステンカラー
★スパニッシュ
★ダッフル
★ドンキー
★ランチ
★その他
ALL 9800 YEN
冬休みの外出にはもってこい！
VAN SHOP マルゼン
有楽店 T53―5871 水曜定休日
鍛冶町 T53―8120 火曜定休日

楽しいお買物の広場
ママチェーンの店
スーパーグリーン
いぐち

名作を読みましょう
文庫本はいつも
豊富に揃っています
三省堂書店
本店 浜松市大工町一四二 TEL(代)五四―〇二三一
支店 浜松市平田町五二 TEL 五二―八五〇一